

## 平成18(2006)年度 茨城県県民経済計算の概要

( 企画分析グループ )  
電話：029-301-2642

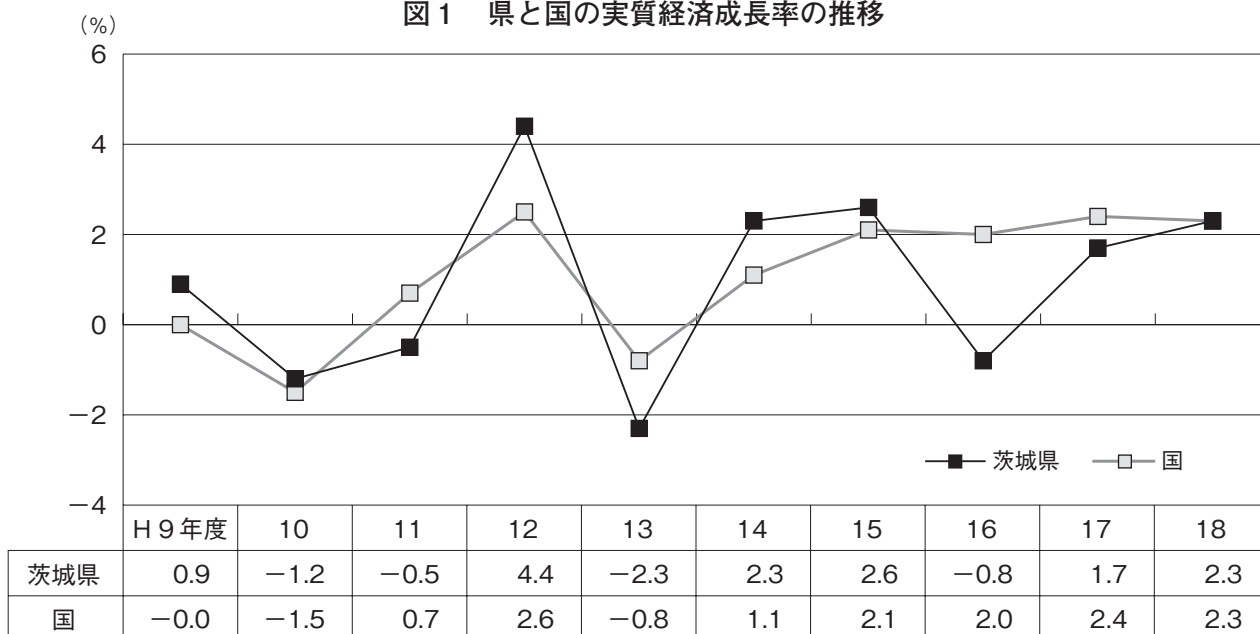
茨城県県民経済計算は、茨城県における1年間の県民経済活動を、「生産」、「分配」、「支出」の3つの面から把握することにより、県経済の規模や成長率、県民の所得水準、さらには県内の産業構造等を計量的にとらえるなど、県経済の実態を総合的・体系的に把握しようとするもので、国民経済計算（いわゆるGDP統計）の茨城県版に当たります。

平成18年度の茨城県の経済成長率は、名目+0.8%、実質+2.3%と名目では3年ぶり、実質では2年連続のプラス成長となりました。

県内総生産	名目	10兆9,507億円	(前年度 10兆8,594億円)
	実質	12兆890億円	( 同 11兆8,123億円)
経済成長率	名目	+0.8%	( 同 ▲0.2%)
	実質	+2.3%	( 同 +1.7%)
県民所得		8兆4,499億円	( 同 8兆3,403億円)
一人当たり県民所得		284万3千円	( 同 280万3千円)

(注) 実質は連鎖方式による。

図1 県と国の実質経済成長率の推移



## ■調査から

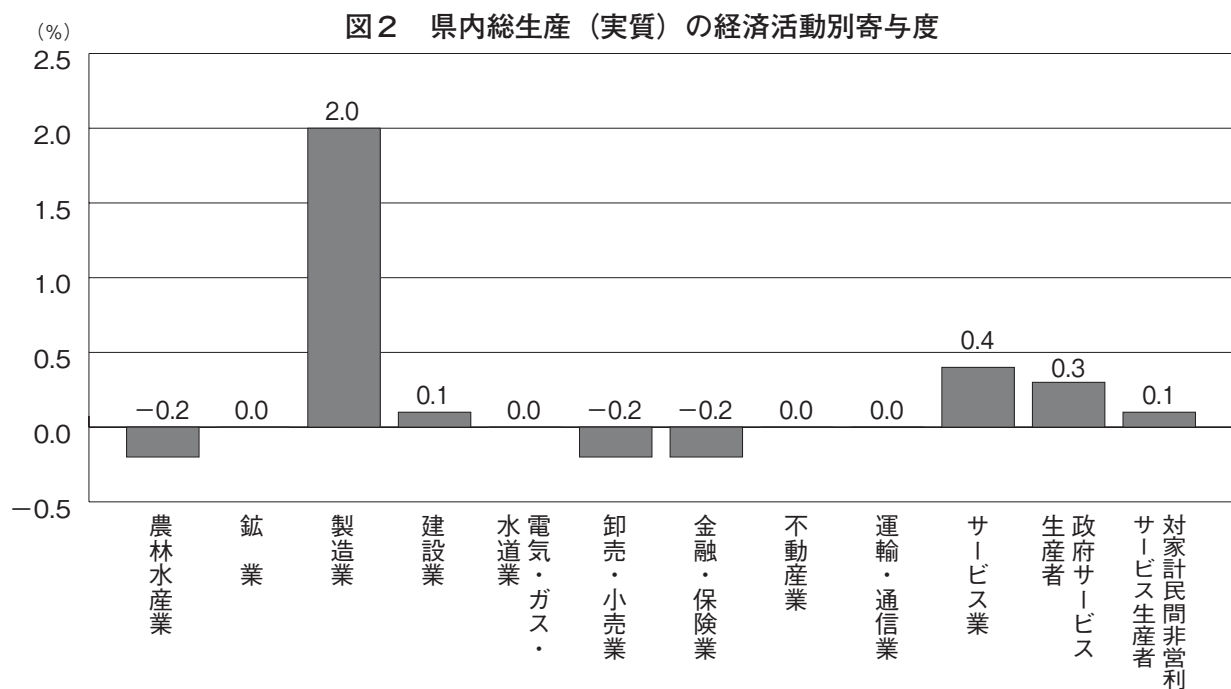
### 1 県内総生産（生産側）

※ 実質経済成長率は、「製造業」「サービス業」等がプラス、「農林水産業」「卸売・小売業」「金融・保険業」等がマイナスに寄与

県内総生産（生産側）は、名目10兆9,507億円（対前年度比+0.8%）、実質12兆890億円（同+2.3%）と名目では3年ぶり、実質では2年連続のプラス成長となった。

実質経済成長率（+2.3%）に対する経済活動別寄与度を見ると、農林水産業（▲0.2%）、卸売・小売業（▲0.2%）、金融・保険業（▲0.2%）などがマイナスに寄与したものの、製造業（+2.0%）、サービス業（+0.4%）などがプラスに寄与した。（図1）

また、産業別構成比（名目）は第1次産業が2.2%（前年度2.4%）、第2次産業が37.2%（同36.7%）、第3次産業が62.9%（同63.4%）となった。このうち構成比第1位の産業である製造業は31.2%と0.4ポイント増加したが、第2位のサービス業は18.0%と横這いであった。



### 2 県民所得の分配

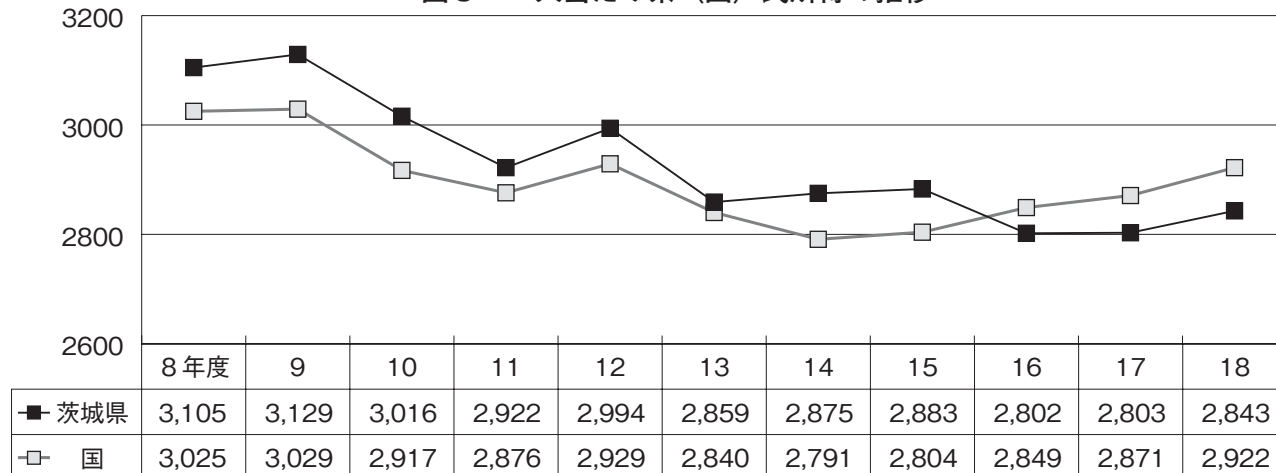
※ 企業所得は増加 県民雇用者報酬は減少

県民所得は、8兆4,499億円（対前年度比+1.3%）と3年ぶりに増加した。

これは、県民雇用者報酬が5兆5,149億円（同▲2.2%）と6年連続で減少したものの、企業所得が2兆5,979億円（同+7.5%）と3年ぶりに増加したためである。

また、県民所得を茨城県総人口で割った一人当たり県民所得は2,843千円（17年度2,803千円）と2年連続の増加となった。なお、一人当たり国民所得は、2,922千円（同2,871千円）となっており、平成16年度以降、3年連続で国の水準を下回っている。

図3 一人当たり県（国）民所得の推移



### 3 県内総生産（支出側）

※ 民間総固定資本形成、移出入（純）はプラス 民間最終消費支出はマイナス

名目経済成長率（+0.8%）に対する支出側の項目別寄与度をみると、民間最終消費支出（▲0.1%）、公的総固定資本形成（▲0.8%）などはマイナスに寄与したものの、民間総固定資本形成（+0.7%）、移出入（純）（+1.1%）などはプラスに寄与した。（表1）

表1 県内総生産（支出側、名目）

区 分	17年度	18年度	対前年度増加率		構成比		寄与度	
			17年度	18年度	17年度	18年度	17年度	18年度
	億円	億円	%	%	%	%	%	%
民間最終消費支出	54,742	54,603	0.2	△0.3	50.4	49.9	0.1	△0.1
政府最終消費支出	19,340	19,871	4.7	2.7	17.8	18.1	0.8	0.5
民間総固定資本形成	20,845	21,572	12.2	3.5	19.2	19.7	2.1	0.7
住宅	4,317	4,746	9.6	9.9	4.0	4.3	0.3	0.4
企業設備	16,529	16,826	12.9	1.8	15.2	15.4	1.7	0.3
公的総固定資本形成	6,626	5,791	7.6	△12.6	6.1	5.3	0.4	△0.8
在庫品増加	510	1,087	-	-	0.5	1.0	0.4	0.5
財貨・サービスの移出入（純）	10,754	11,952	△6.6	11.1	9.9	10.9	△0.7	1.1
統計上の不突合	-4,223	-5,368	-	-	△3.9	△4.9	-	-
県内総生産（支出側）	108,594	109,507	△0.2	0.8	100.0	100.0	△0.2	0.8

（注）四捨五入の関係上、内訳の計と合計は必ずしも一致しない。